

元気UP アップ通信



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>

コンテナ貨物の取り扱い開始 沖合人工島長州出島



んには。市長の中尾友昭です。4月から、垢田沖にある沖合人工島長州出島でコンテナ貨物の取り扱いが始まりました。

コンテナとは、貨物を運ぶために鋼鉄やアルミニウムなどで製造された箱で、中に貨物を詰め込み、船や航空機、鉄道、トラックなどを使って国内はもちろん、世界中に運ぶ物流には欠かせないものです。世界中で船からトラックや鉄道に積み替えることができるように、コンテナの大きさは国際的に規格化され、大きいものは長さ約12メートル、積載重量は約30トもあり、重くて大きなコンテナを積み替えるためには、専門のクレーンが必要となります。

下関港には、韓国の馬山市と釜山市を結ぶ週3便の定期コンテナ航路があり、コンテナ用クレーンを備えたふ頭は、岬之町コンテナターミナルと長州出島国際物流ターミナルの2カ所、昨年3月までは、岬之町コンテナターミナルにあるガントリークレーンを使って荷役を行っていました。しかし、製造から22年が経過していたガントリークレーンは、老朽化のため

使用を停止せざるを得なくなり、岬之町ではコンテナ貨物を取り扱うことができなくなりました。

市港湾局では、定期コンテナ航路を維持するために、急ぎよ東大和町の本港地区第1突堤に暫定的に代替のコンテナ機能を設置し、コンテナ荷役機能を移転する計画で整備していた長州出島への荷役機能整備を加速させました。定期コンテナ航路を利用している方々に対しては、長州出島への早期移転を依頼しました。

利

用者の方々の理解と協力を得て、長年の夢であった長州出島でのコンテナ荷役が始まったことは、昨年4月のアフリカ向け中古車の輸出に続き、下関港の将来の発展に向けた大きな一歩です。今後、長州出島でのコンテナ取り扱いが順調に進むよう船社など関係者と連携し、支援してまいります。

長州出島については、今後、埋立て工事の完了に併せ、積極的に企業誘致を行います。コンテナ機能を移転した岬之町は、隣接するあるかぼくと地区と一体となった再開発を考えています。これから下関港にご期待ください。

しものせきナビ vol.55

幕末維新紀行

さくらましようこんじょう
櫻山招魂場
上新地町二丁目2406番1



櫻山招魂場は、奇兵隊の嘆願により、元治元(1864)年5月に尊皇攘夷に倒れた隊士らを身分の区別なく慰霊する施設として創設され、翌慶応元年8月に招魂祭(※1)が挙行されました。のちに全国に設けられる招魂社の先がけで、幕末の下関を象徴する史跡として、先月21日に市指定文化財に指定しました。

櫻山神社社殿裏にある招魂場は、吉田松陰や高杉晋作をはじめ391基の招魂碑が整然と立ち並びます。この姿に至るには、数度の改変があり、現在の招魂碑



の色合いからは、一つ前の配置形態を読み解けます。松陰碑はある時点で他と区別すべく一段高く最前列中央に据えられ、戦前の時代背景を映し出します。この場所を見澄ませば、あなたの幕末維新に対する興味を、さらなる深みへと誘ってくれることでしょう。

(※1) 招魂祭は、尊皇のもとに戦死した者を慰霊し、変革成就を誓う祭祀。文久二(1862)年に京都霊山で在京各藩有志により行われたことに始まる。